

## 第4章 まとめ

継続して調査をしているのは覚せい剤乱用者数がどのように変化しているかを知るためである。あくまでも調べていることは「乱用者を知っている人数」であるが、平成10年度と平成11年度を比べると、乱用者を知っている者の割合は1.7%から2.4%に増加している。

表12.1 平成10年度・11年度調査の比較

調査月	総数	(ア)	修正値	(イ)	(ウ)	答えたくないわからない	
1999年8月	1394	45	39	132	1124	6	87
9月	1427	32	32	125	1187	4	79
12月	1341	32	32	98	1133	4	74
合計	4162	109	103	355	3444	14	240
1998年9月	1419	23	23	118	1180	8	90
11月	1427	28	28	148	1169	2	80
合計	2846	51	51	266	2349	10	170

(ア)使用している人を知っている  
 (イ)具体例は知らないが、少しはいると思う  
 (ウ)いない  
 (注)修正値とは8月調査の30歳男性の値をはずれ値とみなし、9月・12月調査から推定した値を用いた合計値のこと。

表12.2 乱用者を知っている者の割合の比較

調査月	推定値下限	推定値	推定値上限
1999年8月	2.3	3.2	4.1
8月 修正値	1.9	2.7	3.6
9月	1.4	2.2	3
12月	1.5	2.3	3.2
合計	2.1	2.6	3.1
合計 修正値	2	2.4	2.9
1998年9月	0.9	1.6	2.2
11月	1.2	1.9	2.6
合計	1.3	1.7	2.2

(注)信頼区間95%の推定を行っている。

あくまでも統計的調査であるために調査のゆらぎを考慮すれば平成10年度で乱用者を知っている者の割合は

1.3%以上 2.2%以下

であるのに対して、平成11年度で乱用者を知っている者の割合は

2.0%以上 2.9%以下

である。増加していると述べたが、二つの区間は一部であるが重なっている。重なって

る範囲

2.0%以上 2.2%以下

に統計学的に言う真の値があるとも考えることもできる。さらに、増加しているのはあくまでも「乱用者を知っている人の数」であることを再度強調しておく。乱用者が増えたと結論するためには、「乱用者を知りうる可能性は変化していない」ことが証明されなければならない。近くにいる乱用者を知っているか否かを問うているのが、マスコミの覚せい剤報道量が多いために、覚せい剤に対する意識が高まり、以前では気づかない乱用者に気づくようになっているだけかもしれない。

乱用している者の推定数を出すこととは、その値が一人歩きする危険があるが、あえて表 12 の各年度の「乱用者を知っている者の割合の推定値」と表 11 の「回答者一人当たりの知っている乱用者数（1年以内・乱用）」を用いると乱用者は

調査年度	20歳以上人口(千人)	乱用者を知っている割合 %	推定乱用者数(万人)	
			最小	最大
H10年度	96699	1.7	70	190
H11年度	96930	2.4	100	269

となる。乱用者数は変わっていないとすると4つの推定値から100万と190万の中間の値145万人を乱用者と見て良いのかもしれない。